

とうきょうすくわくプログラム活動報告書

テーマ 【育てて食べる】2歳児ちゅうりっぷ組

ひらお保育園【稲城市】

テーマの設定の経緯：

・2歳児クラスに進級して落ち着いたころ、食事の場面で苦手な食材になかなか手が伸びない子どもたちの姿があり、いろいろな食材を知ってほしいとの思いがあった。「食育」を考える中で、保育者が以前子どもたちと一緒に育てたしいたけ栽培はどうかと考え、活動に取り入れてみることにした。園で観察したり育てたりすることで、野菜ができる過程も知ることができ、食材を身近に感じられるのではないかと考え活動を進めていった。

・担任保育士が以前しいたけ栽培の活動を行ったときに、育て始めてから収穫までの目に見える成長や変化が早く、興味や関心が膨らむ活動であると考えていた。

探求活動の実践

活動：しいたけを育てて食べてみよう②

環境をデザインする：

準備したもの しいたけ栽培キット、ホットプレート、ハサミ、ボール、しょうゆ、油、菜箸、トング、皿

環境設定 各グループに分かれて、それぞれの部屋で調理してもらい、味わう



活動内容

- ◆ みんなで育てたしいたけを収穫し、ちぎり、栄養士の先生に調理してもらって食べる。
- ◆ 見て、匂いをかいで、手で割いて、焼ける音を聞き、調理して食べてみて、五感を使ってしいたけを味わう。

活動期間：5月30日

とうきょうすくわくプログラム活動報告書

子どもの様子

しいたけの菌床に霧吹きをかけて成長していく姿を楽しんでいたしいたけ栽培、登園の際には「たくさんできてきたね」「おっきくなった!」と、父母と一緒に話をする姿も見られていた。たくさん育ったところで、栄養士の先生にも手伝ってもらい、調理して味わうことにした。

生のしいたけを触るのは初めて、という子も多く、収穫したものを手渡されると押してみたり匂いをかいだり興味津々の様子である。ちぎって割いてボールに入れていくと、小さく小さくちぎって丁寧にを入れる子もいれば、パパッと割いてちょうどいい大きさにしてあっという間に終える子もいて、それぞれの個性が見られていた。

ホットプレートに乗せて焼き始めると、漂ってくるシイタケと醤油のにおいが食欲をそそるようで「おいしそう…」とジッと見つめている。その場で焼きたてを手渡ししてもらったり、お皿に乗せてもらうと、「おいし〜!」とほおばり、普段はあまり食べない子も「もっと!もっと!」とお替りして食べていた。苦手な子も一回口に入れて出すが、もう一度チャレンジする姿も見られた。



ひらお保育園【稲城市】



振り返りをふまえた気づき

- ・採れたてのしいたけのにおいをかいだり、漂ってくる匂いに気づいたり、食べるだけでなく五感をフルに使ってしいたけを感じ、味わう姿が見られていた。
- ・普段はあまり進んで食べない子も、皆で育てた思いや食材に触れたこと、目の前で調理して食べる特別感からか「ちょうだい」と手を伸ばし、美味しそうに食べる姿が印象的だった。これをきっかけに、連絡帳にて保護者より「家でも食べてみようとする姿がみられた」という話があった。
- ・給食の際に「これ“きのこ”?»ではなく「これ“しいたけ”?»と具体的な名称を聞こうとする声も聞かれるようになった。
- ・食材への興味が増したのか、給食づくりの手伝い(野菜ちぎり)にも興味を持ち、取り組もうと